

HOT NEWS

ホット・ニュース

函館・江差自動車道 函館茂辺地道路開通



事業概要

函館市とその周辺地域は、古くから北海道の開発を担う交通の玄関口として重要な位置を占め、本州方面との陸、海、空の交通拠点となっております。

函館・江差自動車道は、道南圏の中心都市函館市と松山支庁の中心都市江差町を結ぶ延長約70kmの一般国道の自動車専用道路であり、このほど一部区間が開通しました。

開通した区間は、一般国道5号函館新道と結節する函館イ



開通式



開通式パレード

インターチェンジから上磯町の主要道道上磯峠下線と交差する箇所には設けられた上磯インターチェンジまでの延長8.4kmの区間です。途中、一般国道227号と交差する箇所に大野インターチェンジが設置されております。

当区間は、平成2年に事業化となり、平成5年度に着工しております。コスト縮減と早期完成を目指し暫定2車線で先行整備しており、平成15年3月24日に開通しました。

技術的特徴

函館インターチェンジから大野インターチェンジまでの区間は、地元有識者等で構成される景観懇談会の意見等により、明日にはばたく函館新時代をイメージした設計が行われています。また、大野平野区間は泥炭性軟弱地盤で、盛土の大規模な沈下が想定されたことから、経済性、施工性、工期等を考慮し、動態観測によるプレロード工法で施工されました。

維持管理体制では、安全で快適、円滑な走行を確保するために24時間・365日リアルタイムで安全をバックアップする体制を整えております。



整備効果

道南圏は自動車交通への依存度が高いことに加え、函館都市圏では市街地が郊外部へ拡大傾向にあり、郊外部の環状系の道路が未整備であることなどにより著しい交通混雑が発生しており、新たな環状道路網の整備が急務となっています。

一方で、道南圏の国道は、海岸線を通過している区間が多いため、自然災害などによる交通への影響を受けやすく、安全で確実な道路が待ち望まれています。また、都市間距離が長く、しかも行政や流通、教育・文化、高次医療施設等が函館市周辺に集中しているため、高速交通ネットワークの整備



による幹線道路網の充実が重要な課題となっております。

函館江差自動車道は、函館新道と函館インターチェンジで連結し、函館都市圏の交通環境を改善するとともに、将来的に道央圏と結ぶ北海道縦貫自動車道や地域高規格道路函館新外環状道路と連結することで、道南圏全体の社会・経済活動の一層の飛躍に寄与するものであります。

環境への配慮

函館江差自動車道は、市街地から大野平野の田園地帯を通り、山地へと抜ける変化に富んだ道路です。このため、周辺環境との調和と交通安全機能の充実を目指し、学識経験者や地域の方々からなる緑化検討委員会により「函館江差自動車道道路緑化基本計画」を策定しました。緑化の実施に当たっては、一般からの参加を呼びかけながら、人々に愛される道路となるように進めていく予定です。



帯広・広尾自動車道「帯広川西道路」開通



帯広・広尾自動車道概要

高規格幹線道路「帯広・広尾自動車道」は、北海道横断自動車道の帯広JCT（芽室町）を起点に、帯広市・中札内村・更別村・忠類村・大樹町・広尾町に至る1市6町村を縦貫する、延長約80kmの一般国道の自動車専用道路です。十勝圏の交通体系の向上はもとより、北海道横断自動車道、とち帯広空港、十勝港とのアクセスにより、十勝圏の農業、観光、輸送などの産業や高次医療の拠点である帯広への緊急搬送等人々の暮らしの向上を目的として計画されました。

このうち帯広JCT（芽室町北明）～帯広川西IC（帯広市川西町）間約17km、は帯広川西道路として平成4年度に事業化され平成7年度から工事に着手し今回開通しました。



帯広川西道路概要

事業化	平成4年度
工事着手	用地補償着手：平成6年度 工事着手：平成7年度 土狩大橋下部工事から着手
道路規格	1) 道路種別 1種2級 設計速度100km/h B交通 2) 規制速度 70km/h 3) 暫定整備水準 4車線区間 W = 23.5m (2.5 + 2@3.5 + 4.5 + 2@3.5 + 2.5) 2車線区間 W = 12.0m (2.5 + 3.5 + 3.5 + 2.5) 4) 連結施設 ●帯広JCT 芽室町北明：北海道横断自動車道と連結 ●芽室帯広IC 芽室町西土狩：道道十勝IC線、R38と連結



開通式

●帯広川西IC

帯広市川西町：道道川西IC線、

R236と連結

主要構造物

長大橋名	橋長	上部構造
西土狩橋	350.0m	7径間連続PC箱桁
土狩大橋	610.0m	大偏心外ケーブル方式5径間連続PC箱桁
北伏古橋	232.5m	3径間連続鋼箱桁

土狩大橋は土木学会田中賞を受賞している。

環境への配慮

帯広川西道路建設に際しては既存の自然をできる限り保全しながら工事を進めて参りました。特に貴重な動植物が生息・生育している区域では、環境保護団体、有識者からの助言を頂きながら、道路周辺の自然環境の確保に細心の注意を払いつつ、動物の移動経路確保等が可能な工法を採用致しました。



移動経路の確保

事業の経過

帯広・広尾自動車道は、北海道横断自動車道とアクセスするため、十勝圏域はもとより、道央、道南、道北へも迅速かつ安全に移動できるようになり、さまざまな場面で都市と都市、人と人との交流が生まれていくものと期待されています。また、十勝帯広空港や十勝港などの交通拠点とアクセスすることにより、道外へもより速やかに出向くことが可能になります。



芽室帯広IC

一般国道40号 名寄バイパス2工区開通

一般国道40号名寄バイパスのうち名寄北ICから智恵文IC間(延長7km)が平成15年3月21日に供用開始となりました。これにより、すでに供用されている名寄IC～名寄北IC間(延長4.9km)と併せ、延長11.9kmの一般国道の自動車専用道路が開通しました。

事業の概要

一般国道40号は、旭川市を起点に士別市、名寄市等を経由し、稚内市に至る道路であり、名寄バイパスは高速自動車国道に並行する一般国道の自動車専用道路として整備しています。平成9年度に延長4.9kmが供用しており、引き続き区

間として今回新たに延長7kmが開通しました。これにより、全体計画延長19.5kmのうち、約6割の区間が供用することになりました。



事業の経過

名寄北IC～智恵文IC間は、平成8年度に事業化され、工事は平成10年度から5年間の歳月をかけ実施されました。本区間は平地・丘陵地を穏やかな線形で通過することから、盛土構造と切土構造が主体で全体の約8割が土工区間となっており、残りは河川の横断や交差する道路の連結のための中小橋やボックスカルバートを施工しています。また、橋梁には地域のキャッチフレーズを印象づける橋名をつけるなどの配慮をしております。



開通式

環境への配慮

工事は、周辺環境への影響を最小限に押さえるよう注意を払いながら進めており、特に周辺環境への配慮と地元林産業の振興の観点から、間伐材を利用した木製立入防止柵を採用しています。



間伐材を使用した立入防止柵

バイパスの開通にあわせたイベント

バイパスの開通にあわせ、地域の小学生親子による写生会が開催され多くの親子が現場見学を行ったのち開通前の工事現場の写生を行い道路整備への理解を深め、優秀作品には表彰を行いました。また、開通当日、名寄バイパス開通記念フォーラム実行委員会主催による北・北海道のより良い地域づくりに向け、バイパスの開通を「どう位置づけ、活かすべきか」について、積極的な討議のうえ、地域の声として発信しました。



開通記念フォーラム

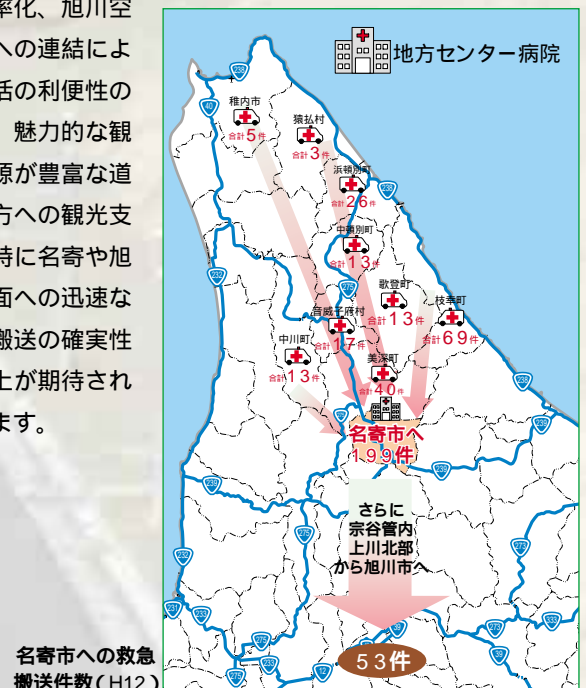


親子写生会作品

期待される効果

本区間が整備されたことにより、従来より所要時間が約半になるとともに、名寄市街地の交通混雑の緩和、事故の軽減、現道の交通障害箇所の解消が図られます。

また、現在事業中の和寒～名寄間の北海道縦貫自動車道と一体となって、高速自動車道路ネットワークが形成されます。これにより、地域の自立的な発展や道央・道北圏の物流の効率化、旭川空港等への連結による生活の利便性の向上、魅力的な観光資源が豊富な道北地方への観光支援、特に名寄や旭川方面への迅速な救急搬送の確実性の向上が期待されています。



名寄市への救急搬送件数(H12)